

令和2年度(令和元年度実施事業分)事務事業評価評価票

No. 23-007
 担当 鶴飼
 内線等 437

PDCA	事務事業名	道路環境美化事業(防草対策)	部課等名	建設部土木課	建設担当		
P 総合計画との関係性等	政策体系	章： 第4章 安全で快適に住み続けられるまち					
		節： 第2節 都市基盤の整備					
		基本施策： 3. 交通体系					
		単位施策： (2) 生活道路の整備					
根拠法令等	個別施策： ①安心して利用できる道づくり						
対象・目的	市管理道路における快適な住環境の創出と安全性の確保						
目的を達成するための手段・活動内容	市内一円の市管理道路について、快適な住環境の創出と安全性の確保のため、道路の路肩や法面などに防草シートやコンクリート等を張り、雑草の繁茂を防止する対策を実施する。						
D 前年度の活動結果と見られた成果	活動結果	活動実績	29年度	30年度	元年度	単位	
		①防草対策箇所			28	箇所	
		事業費			62,456	千円	
		人件費			1,990	千円	
		総事業費			64,446	千円	
		活動単位当たりのコスト	29年度	30年度	元年度	単位	
	①防草対策1箇所当たりコスト			2,302	千円		
	成果	成果指標	29年度	30年度	元年度	単位	
		①防草対策率(累計)	実績値			15.1	%
			目標値			16.5	
		実績値					
		目標値					
		実績値					
	目標値						
C 課題の整理	観点別評価	必要性	有効性		効率性		
		①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献	大きい	⑦コスト削減余地	ある
		②市民ニーズ	高い	⑤成果向上の余地	ある	※手段の変更	
	③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ない	⑧受益者負担適正化余地	—	
事業の評価・課題	C 市内一円の市管理道路28箇所の防草対策を実施し、快適な住環境の創出と安全性の確保を図ることができた。防草対策後に、草の繁茂が再発しないよう対策箇所の経過観察及び端部箇所等のメンテナンスを行い、防草効果を継続させる必要がある。						
A 課題解決のための目標	今後の事業の方向性	改善推進 住民要望等により、新たに除草箇所が確認された場合は、緊急性や必要性を踏まえ防草対策の可否を判断して、計画的に実施する。					
	令和2年度の目標	成果指標			目標値	単位	
		①防草対策率(累計)			19.5	%	